

東京家政学院短大 岡野和子 戸板女短大 岡本茂子 東京家政学院短大
○稲川春江 石井早苗 四天王寺女短大 片岡五月 大妻女大家政 木野内清子

目的 和服は、社会環境の変容、生活様式の変化に伴って、その着用に晴と藝の二極分化をもたらしており、素材にも高級化、多様化がみられるようになった。和服業界では近年、若年層を対象にして洋服感覚で着用でき、取り扱いが簡便であり、また低価格などを考慮して既製和服を提供している。これに伴い、徐々に既製品の購買層が拡大され、レンタル和服利用度も高まってきた。そこで、既製和服の現状を把握し、問題点を明らかにするため、「表示」に関する共同研究に連係させて調査研究を行った。

方法 アンケート調査は、質問紙調査法で実施した。

- ①調査地域 北海道・東北、関東、中部、近畿、中国、九州の6地域である。
- ②調査対象 家政系大学・短大生、その母・祖母などの各年齢層、ならびに茶道・和裁教室などに属する和服着用頻度の多い女子 計3970名。調査時期は10・11月である。以上の他、1報の既製和服市場調査の結果を含めて検討した。

結果 既製和服について、認知状況、イメージ、利用状況、購入価格、着用による評価などの結果を得ることができた。和服を着用する頻度の多い者は、和服についての要求度が高く、既製和服の利用度は低い。若年層は感覚的なイメージを重視する傾向がみられた。地域による差異は余り認められなかった。寸法上の諸問題については、製造業者の一部に特異性がみられたが、一般的傾向を知ることができた。今後、既製和服のシエアーは拡大方向にあると思われるので、異なる年齢層と体型に適応した既製和服を検討していきたい。